



日本テレビ放送網株式会社 CSR

日本テレビ放送網株式会社
アニュアルレポート 2012年 3月期 別冊版



目次

■日本テレビのCSR

- 日テレ・サステナビリティ 1
- 「国連グローバル・コンパクト」に署名 1

■日本テレビならではの活動

- 24時間テレビ「愛は地球を救う」..... 2
- 日テレecoウィーク「“つなげよう、ecoハート。2012” ～幸せのカタチ～」..... 3

■環境活動

- 基本理念 4

■社会的活動

- 企業倫理 4
- 人材育成 5
- ママモコモ活動 5
- 日テレ体験教室..... 5

■「よみひと知らず」朗読&ワークショップ 6

■公益財団法人日本テレビ小鳩文化事業団 6

ごあいさつ

日本テレビでは、テレビ局という社会に対する影響の極めて大きい企業が社会的責任を果たしていくことは当然のことと認識しております。日本テレビグループの「2012経営方針」で、メディア企業ならではの社会貢献を掲げており、今後とも震災復興支援をはじめ地球環境保全などへの取り組みを強化していきます。

2012年8月

大久保好男

代表取締役 社長執行役員

大久保 好男



日本テレビのCSR



日テレ・サステナビリティ基本方針

- 視聴率の追求のみならず質の高さも兼ね備えた番組の制作に努めるとともに、日テレタワーの最新鋭機能を効率的に活用して、デジタル新時代を積極的に生き抜いていきます。
- 若い世代に夢のある美しい地球を残すため、番組を通じて環境保全をアピールするとともに環境負荷低減に努めます。
- 経営環境の変化に対応する迅速な意思決定と業務執行に努め、持続可能な企業価値向上と社会への貢献度を高めていきます。

▶日テレ・サステナビリティ

地球環境の破壊をいかに防ぐか、限られた地球資源をどううまく使っていくのか、次の世代に夢のある美しい地球を残すためにメディアとして何ができるのか。日本テレビでは、2003年4月の「日テレ・エコ委員会」発足以来、これまで番組やイベント、広報・宣伝・IR活動、営業を通じて、また社内で環境保全活動に取り組んできました。2005年8月からは環境マネジメントシステムをスタートさせ、同年11月26日、在京民放キー局の全社規模としては初めて汐留日テレタワー（東京・港区）においてISO（国際標準化機構）の環境マネジメントシステム規格「ISO14001：2004」の認証を取得しました。

私たちが生きる地球を守るために、そして私たちの社会がいつまでも発展し続けるために何をなすべきか。日本テレビは皆様とともに考え、これからも番組

やイベントを通じて、地球環境保全の大切さを伝えていきます。



FTSE4Good

英FTSEインターナショナル社の社会的責任投資指標である「FTSE4Goodインデックスシリーズ」の構成銘柄に9年連続の選定

▶国連グローバル・コンパクト」に署名

2011年1月、日本テレビは「国連グローバル・コンパクト」に署名しました。国連グローバル・コンパクトとは、1999年1月にスイス・ダボスで開かれた世界経済フォーラムにおいて、当時のアナン事務総長が「民間企業の持つ創造力を結集し、弱い立場にある人々の願いや未来世代の必要に応じていこう」と提唱した企業の自主行動原則です。参加企業には、人権、労働、環境、腐敗防止などCSRの基本10原則に基づいた企業活動を支持し実践することを求めており、世界130カ国、8,700の企業・団体が加盟しています。

日本テレビは、「日テレ・エコ委員会」発足以来、全社を挙げて環境保全活動に取り組んでおり、2005年からは、毎年6月5日の「国連・世界環境デー」に合わせてテレビやイベントを通じ「日テレecoウィーク」キャンペーンを展開しているほか、チャリティー番組の「24時間テレビ」や小学生から高校生を対象にした出前授業「日テレフォーラム課外授業!!テレ小屋」などを通じて、テレビ局ならではの社会への貢献活動を実施しています。今回の国連グローバル・コンパクトへの署名をきっかけに、こうした活動をより強化し、国内のみならず海外からも信頼されるグローバルな企業を目指していきます。



日本テレビならではの活動



▶24時間テレビ「愛は地球を救う」

1978年に産声を上げた「24時間テレビ」は、テレビの持つメディアとしての特性を最大限に活用し、国内外の福祉の実情や支援の必要性を伝えるという意図のもと、今年で35回を数えるチャリティー番組です。2012年は、「～未来～」をテーマとして2012年8月25～26日に放送しました。番組イベント会場での募金をはじめ多くの視聴者の皆様から寄せられた募金は、全国31社の民間放送局によって組織された「24時間テレビ」チャリティー委員会を通じて、全額が「福祉」「環境」「災害援助」の3つの分野の支援活動で活用されています。なお、2011年の24時間テレビでは、全国の視聴者からお預かりした募金総額が歴代最高の19億8,641万4,252円となり、昨年の34回までの累計募金総額は、311億5,993万8,307円となりました(2011年10月現在)。



◆福祉 ～福祉車両贈呈～

福祉車両贈呈は、第1回放送から続いている取り組みです。これまでに、入浴車、リフト付きバスや電動車いすなどを、第34回放送時点において合計9,369台贈呈しました。また、贈呈した福祉車両が有効に利用されているかを報告するため、「稼働状況調査」を年に1度行っています。さらに、贈呈された福祉車両の無断譲渡・売却を禁止し、「24時間テレビ」チャリティー委員会が、廃車まで見届ける管理体制をとっています。解体後は、再利用できる部品は別の車両へ、アルミやスチールは素材としてリサイクルされます。



◆福祉 ～障害者情報保障支援～

●図書館に対する障害者サービス用機器の贈呈

地域の情報の拠点である図書館は誰もが利用できる施設であり、本や情報を提供する役割を持っていますが、視覚に障害のある方にとっては、そのままでは利用しづらい面もあります。そこで、「24時間テレビ」では、社団法人日本図書館協会のご協力をいただき、情報バリアフリーの実現に向け、DAISY再生機等の機器を図書館に贈呈してきました。今年は東日本大震災の被災地にある図書館を対象に機器贈呈を行う予定です。



拡大読書器



DAISY再生機

●身体障害者補助犬普及支援

盲導犬、介助犬、聴導犬などの身体障害者補助犬に関する正しい知識と理解を深められるよう、ガイドブックを作成し、広く配布しています。

◆環境 ～地球環境保護支援～

2004年、支援の柱として「環境」分野を追加したことで、「24時間テレビ」の地球環境保護支援活動がスタートしました。全国各地で、水辺・山辺等の清掃活動、環境保全活動、環境教育活動に取り組んでいます。2011年までの8年間で、延べ5万2,000人以上のボランティアが参加し、約415トンのごみを回収しました。「24時間テレビ」は、これらの活動を通じて地球環境全体への関心を高めつつ、それをメディアが主体的に行い伝えていくことによって、活動の輪がさらに広がることを目指しています。

日本テレビでは、2012年6月3日に特定非営利活動法人荒川クリーンエイド・フォーラムとの共催で東京都江戸川区荒川河川敷において「荒川クリーンエイドアクション2012」を行いました。ごみを一つひとつ記録しながら回収していくことで、ごみを捨てることも捨てないことの大切さを学ぶことができました。また、清掃後に自然環境教室を開催し、干潟やヨシ原

清掃活動実績のご報告

各年3月期	参加者数	ごみ回収量(kg)	参加局数	会場数
2005	1,078	19,000	3	1
2006	1,033	23,000	3	1
2007	1,656	29,720	4	2
2008	6,038	31,265	9	11
2009	7,409	48,303	16	19
2010	14,097	78,470	21	25
2011	11,632	113,596	23	27
2012	9,412	71,846	20	23
合計	52,355	415,200	99	109

を保全することが荒川にすむ生き物の生活環境を回復させることなど、環境保護に関する知識の普及にも努めました。



◆災害援助 ～東日本大震災被災地支援～

「24時間テレビ」では、東日本大震災の翌日より緊急募金を開始し、全国から寄せられた募金を義援金として総額11億5,000万円、震災遺児や孤児の基金に3億円、被災された自治体や県に車両69台を贈呈しました。

また、福島県には福島第一原子力発電所の事故に伴い放射線による健康リスク対策が急務となっていたことから、ホールボディカウンタ車（内部被ばく測定車）を贈呈し、多くの方が検査を受けられるよう支援をしました。

宮城県には、津波被害を受けた障害者地域活動支援施設に作業機材の贈呈による障害者の自立支援を、また地震・津波で壊滅的な被害を受けた障害児の通所施設に遊具類や障害関係専門書等の贈呈を行いました。

岩手県には、学校のグラウンドに仮設住宅が立ち並んだことで子どもたちのグラウンドが失われたため、仮設のグラウンドに照明設備を設置し、被災した子どもたちが安心して生活できるよう支援しました。

▶日テレecoウィーク“つなげよう、ecoハート。2012”～幸せのカタチ～

日本テレビは、次の世代に夢のある地球を残すため、様々な環境保全活動に取り組んできました。その一環として、毎年、「国連・世界環境デー」(6月5日)に合わせてテレビやイベントを通じた「ecoキャンペーン」を実施しています。

今回は「幸せのカタチ」をテーマに、2012年6月3～10日の1週間にわたり、日本テレビのあらゆるジャンルの番組で、期間中にテーマと連動した独自のエコ企画を放送しました。

さらに、イベントでは、協賛企業のエコな商品・サービスの紹介、リサイクルした廃油でのせっけん製作などを企画し、来場者には様々な体験を通して環境への意識を高めていただくことができました。また、10年に1度開催される国連最大級の「地球サミット(リオ+20)」に合わせて、国連環境計画・国際環境技術センター(UNEP・IETC)と地球サミット2012Japanが国連ブースを設置し、来場者の方からリオデジャネイロに送るメッセージやイラストを描いてもらいました。

これからも日本テレビは、番組やイベントを通じて、私たちの地球、そして私たちの社会が美しい姿のまま発展し続けるためには何をなすべきか、皆様とともに考え、地球環境保全の大切さを伝えていきます。



日テレecoウィーク“つなげよう、ecoハート。”

環境活動



▶ 基本理念

日本テレビは、環境と社会への配慮を組み込んだ企業経営「日テレ・サステナビリティ」に取り組み、地球と社会、そして企業の持続可能な発展を目指しています。この日テレ・サステナビリティにおいて、「経済的側面」「社会的側面」と並ぶ3本柱のひとつとなっているのが「環境的側面」です。

今世紀、全世界共通の課題は「地球環境の破壊防止」です。日本テレビは、メディア企業のリーダーとしての社会的責任を強く認識し、環境保全活動「日テレ・エコ」を積極的に展開してきました。番組やイベントを通じて広く地球環境保全をアピールするとともに、企業活動によって生じる環境負荷の低減を図っています。私たちはこれらをさらに推進し、美しい地球を守るための努力を続けていきます。

日本テレビ環境方針

■ メディア企業としての情報発信

日本テレビは、番組や各種イベントを通じて、環境保全の重要性を広く国民にアピールします。これを通じて、メディアとしての社会的責任を果たし、環境保全に寄与します。

■ 環境マネジメントシステムの構築と継続的改善

日本テレビの企業活動に相応しい環境マネジメントシステムを構築し、資源、エネルギーの有効利用を図ると共に、廃棄物の減量化、リサイクルを推進します。また、これを継続的に改善し、汚染防止に努めます。

■ 法令遵守と社会的責任の遂行

日本テレビの企業活動に関連する環境法規制及びその他の要求事項を遵守し、社会的責任を果たします。

■ 環境方針の達成

- ・ 環境目的及び目標を設定し、環境方針の達成に努めます。
- ・ 環境方針を全従業員に周知・徹底し、全社一丸となって実行します。
- ・ この環境方針を広く公開すると共に、地域社会とのコミュニケーションを図り環境の維持に努めます。

社会的活動



▶ 企業倫理

2003年12月に代表取締役会長を委員長とする「コンプライアンス委員会」を設置し、法令遵守、透明性の高い企業活動の推進に努めてきました。2004年6月に「コンプライアンス推進室」を設置するとともに業務監査システムの強化を実施し、さらに、同年7月1日には「コンプライアンス憲章」を制定・発効しました。

コンプライアンス憲章には、日本テレビグループのすべての役員・執行役員・社員が遵守すべき、基本的な内部規範が定められています。日本テレビグループは、自らこのコンプライアンス憲章を遵守することを宣言するとともに、すべての役員・執行役員・社員がコンプライアンス憲章を読み、理解し、遵守します。



<http://www.ntv.co.jp/info/>

▶人材育成

多くの人に支持される放送局であり続けるために、コンテンツのさらなる充実が不可欠であると考えています。

「コンテンツ制作力」は、“人”です。そこで、優秀な人材を求め、その能力を最大限発揮できる環境整備に努めています。社員の仕事の成果を正しく評価するための人材評価制度や、社員の適正な育成を行うためのキャリアデザイン、ジョブリクエスト制度を導入しています。

2003年8月には給与体系の改定を行い、年齢や勤続年数による体系から、社員の実績を重視する成果主義に一本化しました。

また、社員の自己啓発や潤いのある生活を実現するための福利厚生カフェテリアプランなど、社員の活性化に貢献する様々な施策を推進しています。そして、こうした取り組みが会社の価値を高めることにつながると考えています。

▶ママモコモ活動

ファミリー層に楽しく役に立つ情報を発信していくことを目指して、日本テレビおよび日本テレビグループ有志社員が集まり、2010年1月より「ママモコモ」活動をスタートさせました。「ママモコモ」の名称には“ママ”も「子」もハッピーでありますように”との思いが込められています。活動内容としては、イベント会場などで子どもたちとご家族がくつろげる遊びと学びのスペースを用意するほか、授乳室の設置や、アナウンサーによる絵本の読み聞かせなどを実施してきました。2013年3月期には新たに、日本テレビ社屋内でテレビ技術の親

子体験教室を実施しました。また、日テレecoウィークのイベントとしてフリーマーケットを開催し、その売上は日本赤十字社に寄付しました。



●「ママモコモてれび」

2012年4月2日スタート

曜日～金曜日 午前11時25分～30分

「ママモコモてれび」は「日本中の子育てで家族を幸せにしたい」と、親子のみならず社会全体での楽しい子育てを提案していきます。

曜日ごとに「くらし」「つくる」「たべる」「あそぶ」といったテーマを設定し、四季折々の行事や、創作の楽しさ、料理のお手伝い、新しい体験など、楽しく分かりやすくご紹介します。この番組を見てマネするだけでも子どもたちが楽しくなり、大人にとっても「子どもに教えてあげたい」番組を目指します。

さらに番組ホームページでは、番組全編をパソコンやスマートフォンを通じていつでもどこでもご視聴いただけるほか、SNSを通じて子育てのノウハウや悩み、楽しみなどを共有し、子育てファミリーを結びつけるウェブ展開も実施します。

今後も日本テレビ発のエンターテインメントを軸に様々な場面で「ママモコモ」活動を展開していきます。



<http://www.ntv.co.jp/mamamocomo/>

▶日テレ体験教室

メディアリテラシーのさらなる向上を目指し、放送機材と中継車を活用した「日テレ体験教室」を2007年から開催しています。これまでに27回開催し、参加した小中学生は延べ2,800人にのぼります。

この体験教室は、番組づくりの第一線で活躍する技術スタッフが、「テレビについてもっと知りたい!」という好奇心あふれる子どもたちと触れ合いながら番組制作の仕組みを紹介していく体験キャラバンで、中継放送の仕組みや、番組がお茶の間の視聴者に届くまでの過程を知ってもらうための取り組みです。

ここでは、技術スタッフがカメラ撮影のテクニックや音声のミキシング技術を実演するほか、参加者も実際にカメラを担いだり、中継車に乗って音声ミキサーや編集機に触れたりして番組づくりを体感することができます。

日本テレビではこのほかにも、制作現場で働くプロデューサー、ディレクター、報道記者、アナウンサーなどが講師として小学校や中学校、高校などを訪問し、テレビの面白さや魅力、時にはとっておきのエピソードなどを披露する「日テレフォーラム 課外授業!! テレ小屋」も実施しています。

「よみひと知らず」朗読&ワークショップ



「よみひと知らず」は日本テレビと系列局のアナウンサーやキャスターが、東日本大震災の被災地にある学校や仮設住宅の集会所などを回り、日本語をテーマにしたワークショップを行う活動です。発声練習や早口言葉、読み聞かせ、紙芝居など、地域や参加者のニーズに合わせて、企画、運営しています。

1回目が行われたのは、2011年8月26日。宮城県石巻市の小学校で、日本テレビや宮城テレビのアナウンサーが参加しました。来場者も参加できる「発声練習ワークショップ」や「仙台方言遊び」では、会場内が

笑いで包まれるなど、活気に満ちたイベントとなりました。その後も福島県磐梯町や岩手県釜石市などでも同様のワークショップを続けており、2012年3月までに、その数は7回となりました。

こうした活動は、被災地の方々の心のケアが重要な課題となっている中、テレビ局ならではの支援と社会貢献を目指すものです。これからもテレビ局ならではの社会貢献とは何かを考えながら「よみひと知らず」を続けていきます。



日本テレビ・NNN 朗読&ワークショップ

公益財団法人 日本テレビ小鳩文化事業団



1974年に「テレビを享受できない目と耳の不自由な方々を支援する」目的で設立された「日本テレビ系列愛の小鳩事業団」と、1976年に「文化の普及、交流、振興に努め、テレビの枠ではとらえきれない事業を行う」目的で設立された「日本テレビ放送網文化事業団」は、財団運営の効率化と事業活動の相乗効果を図るため、2012年4月2日、公益財団法人「日本テレビ小鳩文化事業団」として統合されました。現在行っている主な事業は以下の通りです。

● 手話スクール開講

手話の普及発展を願い、毎週土曜日、東京・千代田区麹町で約100人の受講生が手話を学んでいます。

● ニュースの手話放送

毎週日曜日のNNN朝のニュースに手話通訳をつけ全国にお届けしています。

● 点字カレンダー配布

世界でも珍しい12枚の写真付き点字カレンダーを毎年、全国の視覚障害をもつ方々に無料で配布しています。

● 俳句塾の開講

俳句を通じて日本語への関心と日本語能力を高めること、そして四季の情景を楽しむ感性を育むことを目指して、隔週土曜日に中学生から大人までの幅広い世代が共に学んでいます。

● 想いでの詩コンサートの開催

抒情歌、童謡を中心に、自然の美しさ、家族の絆などを歌った楽曲のコンサートです。歌をとおして日本の美しさ、人々の温かさを感じてほしいとの願いから、毎年様々な歌い手さんの共演によるハーモニーをお楽しみいただいています。